

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月16日

[評価実施概要]

事業所番号	290100049		
法人名	社会福祉法人桐紫苑		
事業所名	グループホーム あべの		
所在地 (電話番号)	〒030-0943 青森県青森市幸畑阿部野163-112 (電 話) 017-738-6700		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 21年 1月 21日	評価確定日	平成 21年 3月 16日

[情報提供票より] (平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 12月 11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	12 人	常勤 7人, 非常勤 5人, 常勤換算 8.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000~21,000 円	その他の経費(月額)	冬期 6,000 円
敷 金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	86 歳	最低 62 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニックこころの森、ミナトヤ歯科医院
---------	---------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

保育園・市営団地が隣接しており、八甲田の入り口で自然豊かな立地条件に立てられている。地域住民との交流も盛んに行われ、誕生会・敬老会・クリスマス会などに参加が見られたり、環境整備・避難訓練時の協力もある。母体施設が老人保健施設で管理栄養士による献立作成、その献立に基づき施設独自の工夫を加えて提供されている。常勤看護師による健康管理も安心して生活できる要因の一つで、介護との連携を図り利用者の支援をしている。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の評価では具体的理念の作成を期待されていたが、わかりやすい言葉に代え作成、職員への周知徹底されている。勉強会等の開催で職員の質の向上を図られているが記録が残されていないことで確認されにくいところがあるので報告書の検討を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	外部評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組まれており、気付きがみられているので、今後のサービスの質の向上につながることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	老人会会長を始め民生委員・ご家族・入居者が参加し、開催されている。また市の職員への参加促しも行っている。さまざまな意見の交換がなされサービスの向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部10, 11)
	面会時に利用者の様子や健康状態を細かく報告したり、面会に来られないご家族には電話や手紙で現状を報告し、ご家族に意見・苦情を引き出すようにしている。運営推進会議でも意見を求め運営に反映されている。また「意見・苦情箱」を設置している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域住民の方々を招いての、誕生会・敬老会・クリスマス会などを実施し、地域交流を図っている。また団地・保育園が近くにあり気軽に行き来できる良好な関係を築いている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解され、独自の理念をわかりやすい言葉で掲げ、それを全職員が携帯し取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員に周知を図り、理念に従い実現に向けて取り組み日々支援を行っている		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域住民の方々を招いての、誕生会・敬老会・クリスマス会などを実施している。また団地・保育園が近くにあり気軽に行き来できる良好な関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価での改善策の検討を図り、改善計画の策定がなされている。	○	改善計画の実行により、より良いサービスの実行につなげていかれる事を期待します。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人会会長を始め民生委員・ご家族・入居者が参加し、開催されている。また市の職員への参加促しも行っている。さまざまな意見の交換がなされサービスの向上に努めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護担当者や介護保険担当者と運営や問題等について連絡を取り、訪問の際に情報提供を行ったり、連携を図っている。運営推進会議への参加も促している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、パンフレットなどを利用した勉強会が行われており、全職員に周知、理解を促している。	○	勉強会を実施しているが、資料と一緒に勉強会の記録を残し今後の勉強に活かされていくことを期待します。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施し、対応法について全職員が理解し、観察やチームワークの大切さを話合うことにより虐待を見逃さないよう注意を払い、防止に努めている。	○	勉強会を実施しているが、資料と一緒に勉強会の記録を残し今後の勉強に活かされていくことを期待します。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に意見や疑問を聞きながら事業所の理念・ケアの方針をわかりやすく丁寧に説明している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、入居者の様子や健康状態を細かく報告したり、来られないご家族には電話や手紙で現状を報告している。金銭管理は出納帳に記載し、その都度連絡している。定期的な報告ができるように検討中である。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会のたびに、ご家族に意見を求めるようにしている。運営推進会議でも意見を求め運営に反映されている。また「意見・苦情箱」を設置している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職・異動の際は入居者のダメージや影響がない様に配慮されている。新職員配置の際は、慣れた職員が数日付き添い入居者の混乱を防いでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や経験に応じた研修会を通じて育成している。法人内外の研修をうける機会を確保している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通じて同業者と交流し意見の交換をしながら、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者やご家族の意向に沿ったサービスの提供をし、安心して生活できるようなケアが行えるよう職員と家族の話し合いの場を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の喜怒哀楽を共感し、理解するように努めて、笑顔が引き出せるような会話をしよう気をつけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や意向を把握するように努め、生活の中に反映させている。その人個人に合わせた対応がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者やご家族からの意向、また職員の意見・アイデアを取り入れながら介護計画を作成されている。全職員が個々の介護計画を把握した上でサービスの提供を行っている。	○	介護計画を全職員が把握されていることの確認ができるようなシステム作りの検討を期待したい。
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングが行われており、状態変化時にはその状況に即した対応がされている。計画の見直しは全職員に確認してもらい把握するように努めている。	○	介護計画を全職員が把握されていることの確認ができるようなシステム作りの検討を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援・病院の受診介助など積極的に対応されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・ご家族の意向を受け入れながら、かかりつけ医を継続し支援されている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態変化に応じて早い段階で医療機関やご家族と話し合い、利用者にとって良い方法を選択し支援されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各個室であり、利用者の意向を配慮したうえで声がけ対応し、個々の記録は鍵のかかる引き出しに管理されている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた対応をしている。希望に添って過ごせるよう支援されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を洗ったり、テーブル拭き、下膳など役割分担されており、利用者が自ら進んで動けるような支援を行っている。また職員と一緒に食事をし食べこぼし等のサポートを行ったり、利用者との会話を楽しみながら食事時間を過ごされている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めて入浴を勧めているがその人の状態に応じて随時行っている。入浴拒否の利用者に対しては、タイミングを見計らって声かけや対応等の工夫をし入浴の提供をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の栽培、文化刺繍・裁縫など、利用者一人ひとりに合った役割や楽しみ事を促す働きかけを行っている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の楽しみや気分転換につながるよう、希望に応じてドライブや散歩へ出かけるなど戸外に行く支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を実施し、対応法について全職員が理解し、身体拘束は行わないという姿勢でケアされている。マニュアル作成までには至っていないが、やむを得ず身体拘束を行う場合の手順は話し合わせマニュアル化しつつある。	○	勉強会をして職員全員の理解を得られていますが、資料と一緒に勉強会の記録を残し、今後マニュアル化されることに活かしていくことを期待します。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけることがなく、利用者が自由に出入りできるように工夫している。徘徊される利用者については外出傾向を察知した時には、付き添ったり見守りながら支援している。やむを得ず鍵をかける場合は、理由が明確であり、家族への説明を行い同意を得るようにしている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所の住民の協力を得ており緊急時にかけつけてもらえる体制があり運営推進会議等で理解協力が得られるように働きかけを行っている。避難訓練は年に2回行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく取れる献立を採用されている。毎食の食事量・水分量の確認、月1回の体重測定、利用者の状態変化に応じ食事量等の検討を行っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防のために手洗い・うがいの徹底をされており、日常は感染の早期発見に努めている。また感染対応マニュアルが作成されていて全職員での勉強会の開催、マニュアルの再検討などが検討されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には、暦や飾り付け、季節に応じた手作りの掲示物など、居心地よく過ごせるよう工夫されている。玄関から食卓までが見通せる空間はそのままであるがソファや椅子を置き一人になれる空間を作る工夫をされている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真や自宅で使い慣れたもの馴染みの物を置き、家庭環境と同じように工夫し、利用者が安心して過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。